

集った。後に児島氏はテレビのインタビュで「怒涛の数カ月だった」と振り返っている。周りから後押しされて学校まで作ってしまった経営者は珍しい。それほど児島氏には人を引きつける魅力があり、リーダーとしての資質と行動力を兼ね備えているのだろう。子供の頃からクラスのリーダー的存在で、明るく、責任感の強い優等生だった。行動派で面倒見のいい父親似の性格で、阪神大震災のときは被災した友人を自宅に招いて大勉強会を開催した。また母親からは「人の役に立つことの大切さ」を教えられ、経営者になった今も、両親の生き方を人生の指針にしているという。

「せっかく学校を設立したので、学生や講師はもちろん、教育ひいては社会の役に立ちたい」と思いを語る児島氏。その熱意は関西から他地域にも広がり、現在4月の東京校開校に向けて準備中だ。

資格取得がゴールではない。社会で役立てるのが大切

「本来、資格というのは学んだ知識を社会で役立てるために与えられるもの。しかし、最近是国家試験に合格し、資格を取得することがゴールだと勘違いしている学生が多い」と、児島は苦言を呈する。

そこで同校では薬学を通したトータル教育コンサルタントをめざしている。授業の進め方も知識の詰め込みではなく、一生の知識になるよう勉強法から指導。医療に関する雑談を取り入れるなど楽しく学べるよう工夫している。

さらに、異業種交流を重ねるうちに「社会の薬剤師に対する認知度が低い」ことに気づいた児島氏は、講義の中で薬剤師の活動を紹介。例えば、カンボジアの医療支援で衛生指導する薬剤師やアメリカで活躍する薬剤師などさまざまな情報や考えを学生にフィードバックし、薬剤師としての視点の持ち方や夢を持つことの大切さを訴えている。生涯生かせる専門知識として薬学を学んでほしいという思いがあるからだ。そうした独自の教育観が学生の人生を変えたことも少なくない。

「今の医師不足を打開するひとつの方法として、薬剤師の活動の領域を広げていくことが重要になってきている。また薬剤師の資格を得られなかった学生が専門知識を生かせる活躍の場も作っていかないとけない」と、薬学の将来にも思いを馳せる児島氏。武庫川女子大学で薬学修士号、名古屋商科大学で経営学修士(MBA)を取得し、経営者のメンターとしても活動する児島氏は、今後、経営学と薬学の融合を図るといふ。厳しい経営環境にある薬局や病院に対して経営アドバイザーもできる薬剤師を育てる考えだ。

「薬学界を元気にするために、顔の見える薬剤師を育てていきます」。最後にこう語った児島氏の脳裏には、使命感に燃える薬剤師の姿が浮かんでいた。

会社メモ

社名/株式会社Medisere (メディセレ)
 本校/〒532-0011
 大阪市淀川区西中島3-8-21 新大阪パークサイドビル2F
 TEL/06-6885-7778 FAX/06-6885-7780
 URL/http://www.medisere.co.jp/
 東京校/〒169-0075
 東京都新宿区高田馬場4-9-9 13時ホール4F
 TEL/03-6908-7783 FAX/03-3371-8930
 代表者/児島恵美子
 設立年/2007年5月
 事業内容/薬剤師養成教育、MR養成教育、心理カウンセラー養成教育。従業員数20名。学生数約500名。2009年4月、東京校開校。